



自ら掴む経営エッセンス！

(記事：いどばた稲毛) 渡部成夫 過去記事も読めます⇒<http://idoina.com>

12/4 (火)

テーマ：『経営者の三顔』

出席26社26名
(美浜22、他会2、非会員2)

講師：普及事業部次席 和田 毅 氏

「右肩上りで伸びている経営者には、3つの側面・顔がある」



Takeshi Wada

まるで自分がお話の場面にいたかのように、思わず涙が浮かぶ和田氏の講和。

和田毅氏は、法人局普及事業部次席。各方面長のサポート役として全国を担当している。平成元年に倫理研究所入所、2000年に法人局へ移った。

色々な地域を回り、6,000社を超える経営者と交流を重ねて、「右肩上りで伸びている経営者には、3つの側面・顔があることを感じた」と和田氏はいう。どのような顔をしているのだろうか。

1. 経営者の顔

業界の動向や自社のポジション・役割を現状分析によってしっかりと認識しており、それを元に明日へ向って手を打つ素早い判断力・決断力を持つ。そして、それを続ける持続力を持っている。論旨が明快で、メリハリのある経営者の顔だ。

2. 哲学者の顔

「哲学者の」顔というより、「哲学をする者の」顔という感じを受ける。1つの物事に簡単に結論を出さずに、「これで本当に良いのだろうか？」と様々な角度から深く検証して、「やっぱりこれで良い」と決める人。「①何のために」、そして「②誰のために」、自社があり、自分が働き、社員がここにいるのか、年間何度か見直しをするうちに、そうした理念が深い信念となり、根付いていく。稲盛和夫氏は、「会社は社員を幸せにするためにある」といった。深く哲学をした結果が、現在の理念なのだろう。

「社員の心を耕す教育を一生懸命に推進する、教育者の顔」

3. 教育者の顔

いくら理念を振りかざしても、社員がそれに付いてこなければ意味がない。「本当にそうだよなあ」とか、「こういう風に生きられたらいいよなあ」と、社員が心で感じてわかるように、社員の心を耕す教育を一生懸命に推進する、教育者の顔だ。

「生涯で10社10人の社長を、自分がお世話になった地域に誕生させて、地域に恩返しをする」と決めた社長がいる。この社長は、事業を立ち上げて軌道に乗せては、社員を社長に抜擢し、現在6社目を立上げ中だ。恩や感謝の心をどう社員に伝えるか。

富士高原研修所の経営者セミナーには、「恩の遡源」という人気講座がある。恩の源に遡る講座で、両親の純情(まごころ)に触れるのが恩を知る一番の早道と、丸山敏雄先生もいう。富士研から帰った社長は、「親孝行月間」というものを耳にする。それは、社員全員に親孝行を1つ課し、各々が感じたことをレポートにするものだ。

「親孝行が売上につながりますか?」。反対する役員が1名だけいたが、親孝行月間は始まった。社員60人が提出する中、彼1人だけは頑なに拒否した。3年が経つと、社員皆のレポートは冊子になった。お客様にも大人気で、彼も読んでみた。他の社員の成長は日々感じるし、危機感も覚える。彼は初めて、レポートを出そうと思った。

親孝行月間最後の休日、何をしてあげようか、もう夕方だ。とにかく母と祖母のいる実家へ帰ろう。片道2時間、玄関をくぐった。自分が帰っただけで、大騒ぎして楽しそうに色々なことを話す母。ちょっとしてあげただけで、涙を流して黙ってしまう母。「寂しかったんだな。偉そうに社長してたけど、俺は何もわかってなかった」。

帰りがけ、彼は誓った。「2世帯住宅を建てて、お世話になった母に、もう寂しい思いはさせない」と。また彼は心から反省した。「自分は営業成績が良いからと、社員を馬鹿にしていた。売上も停滞している」と。以来、社員の清掃や花を活ける行動にも気が付けるようになり、1人1人に感謝の言葉をかけた。3、4ヶ月も経つと、皆も彼を認めた。自然と、売上も上がった。和田氏は最後に、「美浜にも、1社でも多く、こういう企業が増えることを願っています」と講話を結んでくれた。

次回 第857回MS! 12/11 (火) 6時~7時+朝食会 ホテルニューオータニ幕張 (043-297-7777)

テーマ：『出入幽顕』

講師：千葉県倫理法人会会長 寒竹 郁夫 氏

できるできるやればできる！
明るく楽しくなければ倫理じゃない！
・会員120社・MS30名以上・美浜を美しく